

蒲郡市男女共同参画情報紙

はばたき

特集 ● 働くひとの声



その力 共に生かそう 参画社会

(平成14年度 男女共同参画週間標語)

第3号

2003.3

ジェンダーってなあに？

「女の子はしとやかに」、「男の子はたくましく」など、社会や文化が、男女の役割などに対する思い込みや期待によって長年つくりあげてきた性別の意識のことをいいます。誰もが、「らしさ」にとらわれず、「自分らしく」生きていける社会が、今求められています。

ジェンダーチェック

このジェンダーチェックで性別による固定的な考えを見直してみませんか？
はい(YES)と思う項目に✓を入れてください。

- 女性の消防士さん、男性の保育士さんには違和感がある。
- 片づけや書類整理などの雑用は女性の仕事である。
- 女性にのみ制服着用義務があっても不思議ではない。
- 子どもの学校行事参加のために、男性は休暇を取るべきではない。
- 女性は、男性よりもおいしくお茶を入れることができる。
- 男性が育児休暇を取ることは恥ずかしい。
- 責任者や長のつく役は、男性のほうが女性よりも適している。
- 女性が仕事と出産・育児を両立させるのは無理だ。
- 力仕事は男性に任せたほうがよい。
- 結婚したら、男性は家族を養うのが当たり前である。
- 女性の上司では、仕事がやりにくい。
- 家業の場合、妻に労働報酬を払う必要はない。

あなたの
チェック合計数は
いくつでしたか
？

**【9以上】
レッドカード**

無意識のうちに「男だから」「女だから」という考えを押しつけているのではないのでしょうか？固定的な考えを見直していないと、家庭や社会から退場!ということになりかねません。

**【5~8】
イエローカード**

意外なところでまだ、固定観念に縛られていますね。世間体も気になりますか？でも、自分らしく生きられる社会を目標として一歩踏み出してみましょう。

**【4以下】
ファインプレー**

性別にこだわらずいきいきとしていますね。あなたの快適な生活を周囲にも広げて刺激してあげてください。

働くひとの声

地方の女性正社員は、仕事に対する意識が低いと思う。

産休も一人目は了解できるが、続けて2人目といわれると、実際には仕事上困ることになる。

40代男性（製造業）

以前はフルタイム勤務していたが、少し休んでいたらしいの間に、土日勤務にシフトされていた。

家族のことを考えると、これでは仕事をやめろといわれているのと同じです。

40代女性（看護師）



小学校の教員の性別にかたよがりがあると思う。行事など運営する上で支障があるので、半々くらいが望ましいのではないかなと思う。若いやる気のある人をもっと採用してほしいです。

30代男性（教員）

自宅が職場なので休みがありません。24時間働いている気がします。でも現実にはこの状態で40年もきてしまったので、今さらどうしようもないですね。

60代女性（自営業）

食事の時、女子社員がお茶を入れてくれます。それを当たり前のように思っている人もいけないんだけど、自分のお茶くらい自分で入れるようにしましょうよ！

20代男性（会社員）



パートは賃金が安く、社員との差がありすぎると思うけど、年齢を考えると文句も言えない。実際には50代を超えたら、雇ってもらえるところはないから。

50代女性（販売パート）

外向きには男女差がないようにしているが、内容的にははっきり賃金と仕事の内容に違いがある。

仕事に対する責任感も女の人には感じられないから、仕方がないか。

50代男性（会社員）



パートさんは残業がないのに、社員は当たり前のように残業・深夜勤務があります。社会保障があるから我慢しているけど、責任のないパートに変えてもらおうかと思ってしまいます。

30代女性（飲食店勤務）

同じ仕事をしているのに、男性は研究開発職、女性は総合事務職と分けられる。私も研究開発したい。昇進はやっぱり男性のほうが有利なのは不満です。

女子社員でも結婚して、産休をとってから退職する人もいます。これだから女性は軽く扱われるのかも。

20代女性（メーカー勤務）



インタビュー
を終えて

女性は、仕事に対して甘えているところはありませんか？

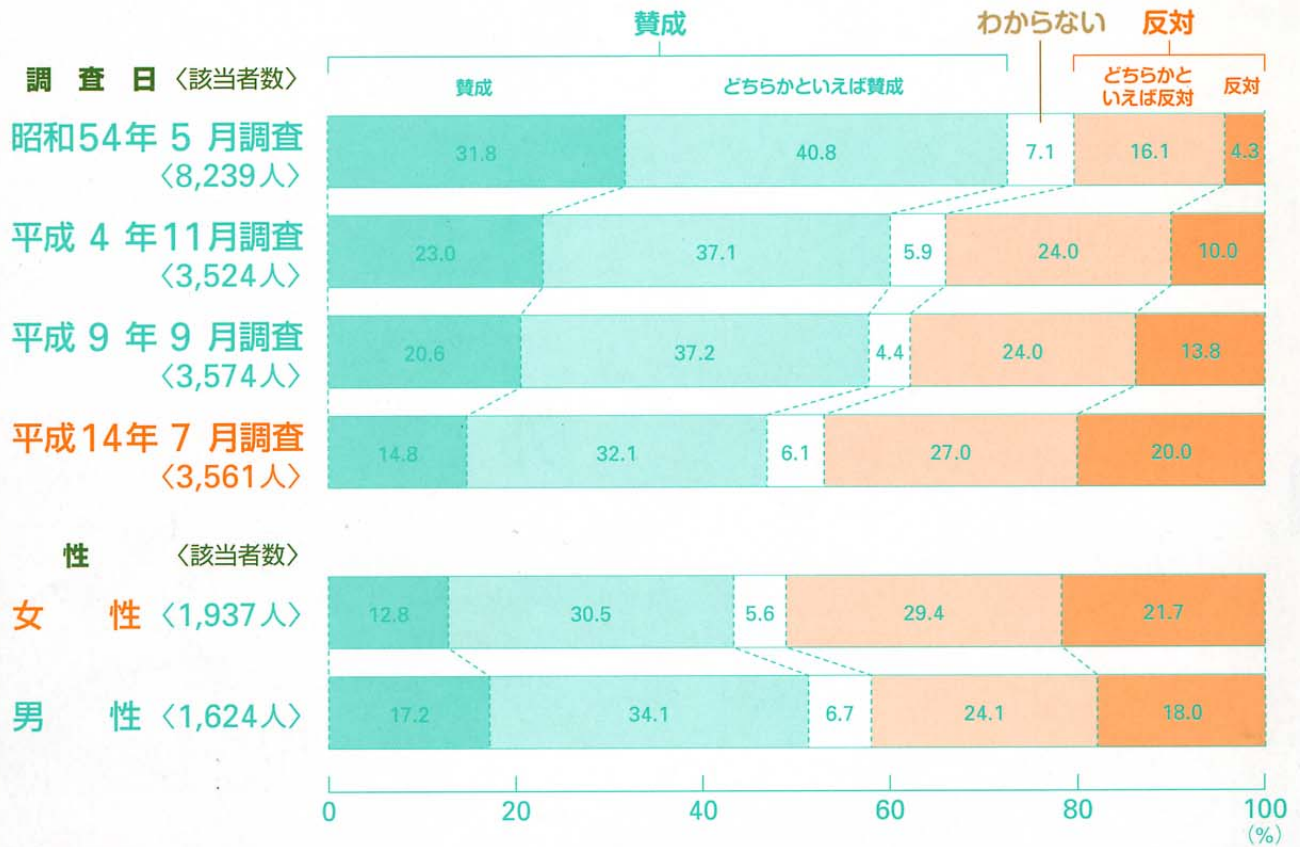
また、男性は女性を軽くみているところはないですか？

男女共同参画社会はどちらかの権利を主張するものではなく、男女にとらわれず働きやすい環境をつくることです。

それにはまず、自分の仕事に責任をもつことが大切です。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

「男女共同参画社会に関する世論調査 (H14年7月)」
内閣府より



コメント

「夫は外で働き妻は家庭を守るべきである。」という考え方は昭和54年では賛成が8割、反対が2割でした。平成14年になると賛成、反対がともに5割になりました。その背景には、社会における女性が働くことへの理解が深まりつつある、ということが考えられます。今、会社からの家族手当が支給されないところが増え、扶養控除も将来的にはなくなろうとしています。一人ひとりが「自分の生活は自分で支える。」ということをもう一度考えてみては、どうでしょうか。それが男女共同参画への一歩につながるのです。

●上記調査に関するお問合せは
内閣府大臣官房政府広報室
世論調査担当

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
TEL 03-5253-2111 内線82780~82783
ホームページ <http://www.gender.go.jp/>

はばたき 第3号
2003.3

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

発行／蒲郡市 企画調整課
編集／「はばたき」編集委員

〒443-8601 蒲郡市旭町17-1
■TEL 0533-66-1162 ■FAX 0533-66-1190
■Eメール kikaku@city.gamagori.aichi.jp

「はばたき」発行も3号になりました。今回は職場に関して特集しましたが、いろいろな問題があり、難しいなあと実感しました。忙しいなか、インタビューに協力していただき、ありがとうございました。

これからも、みなさんが興味のもてる紙面づくりを心掛けていきたいと思います。

編集後記